

京都市立病院 薬剤師外来 (コメディカル外来) について

(文責 京都市立病院 薬剤科 本多伸二)

コメディカル外来の概要について

京都市立病院では、患者への医療の質向上を目的にコメディカル外来を開設し、2014年度から本格的に稼働した。本館改築工事に引き続きコメディカル外来専用の診察室3室を増設し、現在のところ、看護師、薬剤師、臨床工学技師が担当している。内容としては看護師によるがん看護外来、腹膜透析外来、ストーマ外来、造血幹細胞移植後フォローアップ外来のほか、薬剤師による薬剤師外来、臨床工学技師によるペースメーカー外来を実施している。今回は抗がん剤治療中の外来患者に対する薬剤師外来について紹介する。

薬剤師外来について

外来通院患者のアドヒアランス向上を目的として、2014年10月から薬剤師外来を開設した。アドヒアランス向上による医療効果についてはいくつか報告がある。なかでも慢性骨髄性白血病(CML)の治療に用いられるbcr-abl チロシンキナーゼ阻害薬 (TKI) のイマチニブは、アドヒアランスにより予後に大きな影響を及ぼし、アドヒアランスの向上が医療費を抑制したとの報告もある。これらのことから、まずCMLのTKI服用患者を対象として薬剤師外来を開始することとした。当該科受診日に、採血から診察までの待ち時間を利用して実施することで、患者負担を軽減し薬剤師外来での指導内容等を効率的に医師の診察に反映できるよう工夫した。原則としては医師の診察前に面談するが、インフォームドコンセントが未実施の場合などは診察後に行うこともある。がん専門薬剤師が服薬状況や残薬、副作用の発現状況、相互作用のある薬剤の有無等を確認の上、必要に応じて服薬指導や処方変更等の提案を行い、聴取した情報を電子カルテに記載するとともにお薬手帳にも同じ内容を記した薬歴シールを貼付している。これにより保険調剤薬局と患者情報を共有することができ、薬薬連携に寄与した。また、薬剤師外来を実施したいずれの患者もすでに長期間服用しており、アドヒアランスは良好であったが、一部服用忘れ等の症例も認められ、薬剤師による介入によりアドヒアランス向上した事例を経験した。現在の利用者数は、月5~10人となっている。

薬剤師外来の今後について

現在、対象薬剤を限定しているため利用者数は少数にとどまっている。しかしながら、一人の患者に対してがん看護専門看護師など専門的な知識を有したメディカルスタッフと協力しながら実施し、医師と協働して患者を診察することで、さらにきめ細やかな医療を実践できると考えている。今後は、さらに対象患者を増やし、他の医療機関とも情報共有を図り、よりよい医療の提供に繋げていきたい。